いしかわ共創インターンシップ
～物流企業の課題解決に向けた AI 活用と認知度向上～

団体名●村上基礎専門ゼミナール／代表者名●村上統朗（経済学部経営学科・教授）

はじめに（背景・目的・目標）

村上ゼミナールでは、2025年度「いしかわ共創インターンシップ」にて、金沢市の物流企業『株式会社ツカサ』様（石川県金沢市）と連携し、経営課題の解決に取り組んでいます。

物流業界の「2024年問題」や人手不足を背景に、同社から提示された「生成 AI の活用」と「認知度向上」という2つの課題に対し、Z 世代である学生ならではの感性と経営視点を活かした解決策を提案することを目的としました。

活動内容

以下のプロセスで活動を行いました。

1. 企業理解（10/28）：坂池代表より企業理念と業界課題の講義を受け、プロジェクトを開始しました。

2. 現場視察（11/13）：倉庫や事業所を見学し、システム化された管理と、紙ベースのアナログ業務が混在する実態を調査しました。

3. 中間発表（12/23）：4班に分かれ企画案を発表。企業側より「学生らしい柔軟な発想」を求める助言を得ました。
4. 学内発表（1/13）：指摘を反映し、SNS 運用や AI による事故防止策の具体案を発表しました。

成果、結果の考察

約3ヶ月間の活動を経て、以下の具体的な提案の方向性が固まりました。

「認知度向上」については、若年層や女性をターゲットとした TikTok 活用を提案しました。同業他社50社との比較分析に基づき、魅力的な労働条件を前面に打ち出すことで、業界の「3K」イメージを払拭し採用力強化に繋げます。

「AI 活用」については、安全管理と業務効率化に焦点を当て、AI ドライブレコーダーによる客観的な運転分析や、報告書のデジタル化を提案しました。これは単なる省力化だけでなく、事故を「反省」で終わらせず「行動改善」に繋げる教育の質的向上を目指したものです。

また、活動当初は「実現可能性」を意識しすぎて提案が保守的になっていましたが、企業様からのフィードバックを通じて、既存の枠に囚われない「学生らしい柔軟な発想」と、ビジネスとしての説得力のバランスの重要性を深く学びました。

今後の課題、展望

中間発表での「資料が分かりにくい」「学生らしくない」という反省を活かし、情報の要約と常識にとらわれない大胆な発想を徹底します。

SNS 運用のプロトタイプ動画作成や AI 導入効果の具体化を進め、企業様が導入を検討できる説得力のある最終提言を目指します。